

研究代表者氏名	加藤泰建			研究組織	4人	
所属機関・部局・職	埼玉大学・教養学部・教授			所属機関所在地	さいたま市	
研究課題名	先史アンデス社会における文明の形成プロセスの解明					
研究の概要等	<p>インカ帝国で知られる南米先史アンデスでは紀元前1千年紀に独特の文明が形成された。アンデス文明がいかに形成され発展したかを実証的に解明するのが本研究の目的である。</p> <p>日本の研究チームは1988年以降、北部ペルー山地において考古学調査を継続的に実施しとりわけ大神殿遺跡クントゥル・ワシ（前1100 - 前200年）で行った調査研究において多くの学術成果をあげた。また多くの金製品を伴う特別な墓が発見され、研究者のみならずペルーの国内外で広く一般の関心を呼んだ。こうしてクントゥル・ワシ神殿の重要性が広く認識される中で国連ユネスコが文化遺産として修復・保存するための国際プロジェクトを組織し2000年からその事業に着手している。</p> <p>本研究では、このクントゥル・ワシ神殿での調査実績と成果を踏まえ、その学術資料を活用して研究を発展させるために過去10年余で蓄積された膨大なデータを再整理し、理化学的手法などによる新たな分析を行って研究者が広く利用できる遺跡データベースを完成させる。また環境や地形条件などが異なる同時代の他の神殿遺跡において発掘調査を行い、関連地域全体の中でクントゥル・ワシ神殿の位置を明らかにすることにより、文明の形成に関する理論構築を図る。</p>					
当該研究課題と関連の深い論文・著書（研究代表者のみ）	<p>Resultados de las excavaciones en Kuntur Wasi, Cajamarca. Senri Ethnological Studies No.37, pp.203-228, 1993, National Museum of Ethnology, Osaka.</p> <p>加藤泰建、関雄二 編著『文明の創造力 - 古代アンデスの神殿と社会』1998年 角川書店</p>					
研究期間	平成14年度～18年度（5年間）					
研究経費（15年度以降は内約額）	平成14年度 千円 15,500	平成15年度 千円 16,000	平成16年度 千円 16,000	平成17年度 千円 16,200	平成18年度 千円 14,000	合計 千円 77,700